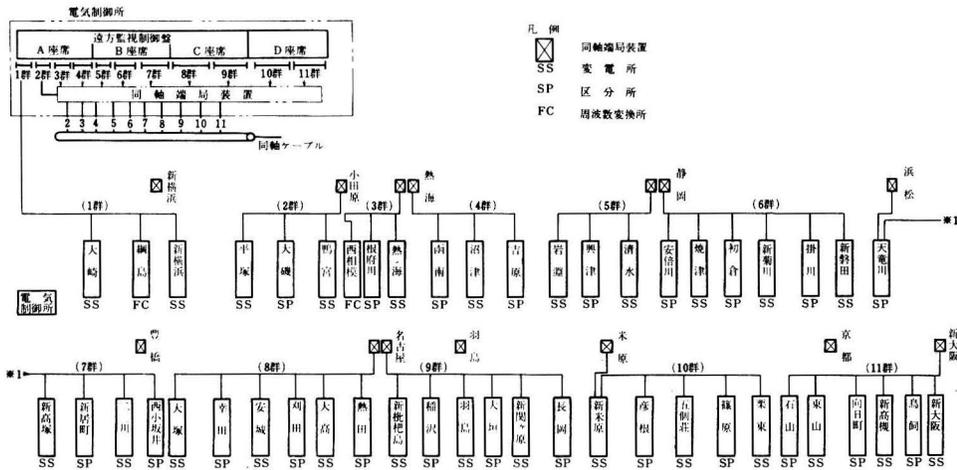


図-1 制御所および被制御所の配置，群構成



線によって結ばれ、端局から各被制御所間は、同じケーブル内に組み込まれている市外星形ケーブル 0.9mm の実回線によって、また第 1 群は距離が短いので同軸搬送回線によらず、直接実回線によって結ばれている。各群には通話帯域 (0.3~3.4kc) の 4 線式電話回線、1 通話路が割り当てられ、制御所・被制御所は下り回線，上り回線に対して従続接続されている。制御所装置はその端末に位置し、制御所からの情報は各被制御所で中継され伝送される。

図-2 H 形方式のシステム構成

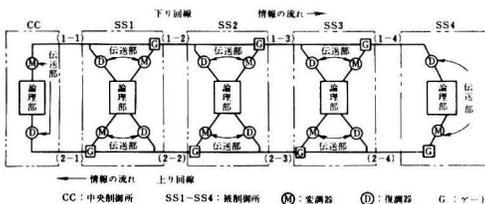


図-2 は 1 群当りのシステム構成を示したものである。符号伝送は、FS (frequency sift) 変調方式 1, 200 ボーで行ない、パリティチェックおよび返信照合方式を行なうことにより確実性を期している。また同時発信の処理を行なうため、制御所を最優先とし、反対側の端末に位置する被制御所を最下位とする近距離優先方式としている。普通ポジションの 1 連絡所要時間は約 70m/s である。また、そのポジション総数は、各被制御所に共通なものを含めて 960 となっている。

次に装置構成とその内容について説明する。制御所には遠方監視制御盤・伝送論理盤・情報記憶盤・電源盤が設備され、被制御所には伝送論理盤・電源盤・結合中継盤をもって構成されている。遠方監視制御盤は写真-1 に示すもので、4 面が扇状に配置され、全線を 4 人で監視制御するように考慮されている。各デスクの制御範囲は下記のとおりである。

- A デスク 1, 2, 3, 4 群 (6SS, 6SP, 2FC, 計 12 局)
- B デスク 5, 6, 7 群 (7SS, 7SP, 計 14 局)
- C デスク 8, 9 群 (6SS, 6SP, 計 12 局)
- D デスク 10, 11 群 (6SS, 5SP, 計 11 局)

図-3 伝送部ブロック図

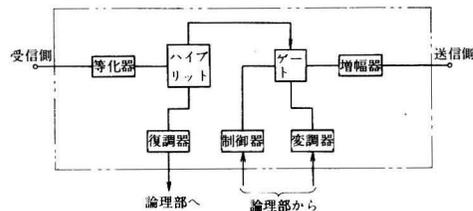
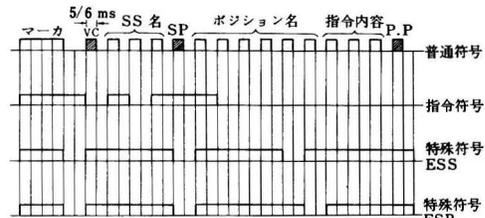


図-4 情報連絡の符号構成



盤の構造，体裁，器具はほとんど従来のものと変わらず，表示も滅灯式として監視を容易にしている点は B 型方式と同様であるが，H 型方式では連絡速度が速いため，蓄積表示灯は設けられず，機器表示灯をもって代表せしめている点，また制御ハンドルは 2 位制御，2 位表示以上の内容を持つものについては，ひねり引き型となっており，ひねることにより指令内容を決定し，引くことにより蓄積，自動的に放出される等がおもな異なる点である。また各デスクには自動記録装置の印字機構部が組み込まれ，情報記憶盤に記憶された情報を自動的に記録されるようになっている。

伝送論理盤は信号伝送部・論理部・結合リレー部に大別される。信号伝送部は制御，表示の符号を変復調するもので，主要回路構成は図-3 に示すとおりである。この回路は図-2 に示すとおり制御所および端末被制御所には 1 組，中間被制御所には上・下回線に対して各 1 組，計 2 組が実装されている。ただし制御所ではゲート中継器は持っていない。FS 変調された受信